

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609105		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム福寿草 しあわせ館		
所在地	大仙市福田字川原道下55-1		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スローガンの「ありがとう、たった一言、大きな愛」の気持ちを大切に、入居者様それぞれの思いに添った支援ができるようにしている。職員はカンファレンス時や気づきがある毎に話し合い、施設内外の研修に参加して知識や技術を得て、より良いケアができるように努めている。家庭的で伸び伸びと張り合いを持って暮らせるように環境を整え、関わっている。
 ・ご家族様には毎月交換ノートや写真、ホームだよりなどを送り施設での様子を伝えている。ご家族様は面会に来てくださり、外出や外泊の機会を持っていただいている。ご家族様より行事へ参加していただき共有できる時間を持つことができ、ご家族様より介護に対しての要望や意見を伺い、介護計画に反映させている。
 ・入居者様のご家族様がボランティアで「おはなしコンサート」を行ってくださっており、地域の小学生と一緒に楽しみたいと招待して行う予定を立てている。また、地域の自治会長に認知症サポーター養成講座開催の働きかけをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が家庭的な雰囲気の中で、健康に生き活きと楽しく生活ができるように、理念を見える所に掲げて、いつでも確認し共有している。グループホーム独自の事業計画を立てて、実行し、いけるように全職員で取り組んでいる。「ありがとう、たったひとつ、大きな愛」をスローガンに掲げ、感謝の気持ちを伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の床屋を利用して、出かけて行ったり、事業所に来てもらったりしている。地域の公民館まつりに作品を出品し、当日出かけている。地域の小学校の学習発表会予行に招待され鑑賞に行き、地域の公民館で開催される民俗芸能フェスティバルにも観賞に出掛けている。事業所の近くの畑を地域の方から借りて、畑作業に行った時に地域の方と行き会い声を掛けていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に地域の民生委員・自治会長・郵便局長・ご家族様が出席してくださり、事業所の活動や様子を報告して、質問や意見をいただいている。自治会長を通じて事業所のホームだよりを地域の方々に配り、また、認知症サポーター養成講座開催の働きかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している郵便局長が、法人で合同で行った敬老会に参加して、行事活動を感じていただき、「ボランティアを行ってくれた高校生の秋田民謡に合わせての昔の農作業の様子は素晴らしく、職員の皆さんの踊りも何時練習したのかと思うほどです」と話してくださった。会議は事業所のホールで行い、日常の様子を感じたり、貼り絵などの作品を観ていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事務所に分からないことを聞いたり、指導を受けている。市の生活支援課の担当者が来訪し生活保護を受けている方の様子を伝え、一人ひとりに会い言葉をかけてくださった。包括支援センターに認知症サポーター養成講座開催について相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行い、転倒の危険がある入居者様は、なるべく歩行することができるように見守りをして、体調をみて車椅子を利用している。夜間も離床した時に直ぐに気づけるように見守りしている。足の筋力が落ちて歩けなくならないように、足の運動や散歩を促している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても毎年研修を行い、認知症のため落ち着かない人には、声掛けや落ち着くまで側で対応している。繰り返しの問いかけを無視せず、その都度、説明している。職員同士で話し合い虐待はもちろん不適切ケアについてもお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加して、職員に報告し学ぶ機会をもてるようにしている。以前、地域福祉権利擁護事業を利用していた方がおり、活用には理解がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設の見学をしていただき、契約時には運営規程や契約書・重要事項説明書を見ていただきながら、説明をして分からないことや疑問に思ったことはいつでも聞いてほしいと話している。また、改定時には事前に文書で改定のお知らせをして承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月交換ノートをご家族様に送り入居者様の状況を伝え、ご意見やご要望を伺っている。また、入居者様との会話の中やご家族様の面会時なども伺い、要望に添えるように職員間で話し合っている。他入居者様に対する言葉や態度の強い方に対する対応についてご家族様と相談して様子をみている方がいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や主任会議などに代表・管理者が出席し、また、職員との面接を行い意見や提案をすることができる。入居者様が変わることによる業務の変更など、何時でも話し合える雰囲気がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を話すことができる。外部研修に参加させていただき、介護や認知症について知識を高めることができ、職員同士で共有している。産休や育休を取ることができ、子供を産み育てやすい環境である。小さい子供がいる職員は日勤帯の非常勤で就業している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動の研修を行った時は、資料での説明だけでなく実践して行った。社内研修の資料は研修係が調べて作成し、講師として伝えている。外部研修には職員のレベルに合わせた研修に参加し、カンファレンス時などに報告して共有している。実践者研修に参加している職員がおり、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で事業所間の施設での研修を行い、それぞれの事業所の特徴を知ると共に、良い所を吸収するようにしている。実践者研修に参加していて、グループワークが多く、密に他事業所の職員と交流を持つことができている。サービスの質が向上するように積極的に研修に参加し、他職員に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを全職員で共有し、不安や困っていることがあれば、側に寄り添い話を聴いている。今までの生活や好きな事など入居後に会話の中から把握し、職員間で共有して同じように関わることで安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をして施設の様子をみていただき生活の場を確認してもらう様にしている。ご家族様の入居者様に対する思いや困っている事、要望を伺い、交換ノートや写真を毎月ご家族様に送り施設での様子を伝えることで「施設での様子が分かり安心できる」とコメントをいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきなど食事作りを手伝っていただき、掃除や洗濯たたみなどできる事を一緒に行っている。雑巾を縫っていただき、掃除の時にとても助かっていると感謝の気持ちを伝えている。御殿まり作りを趣味にやっていた入居者様に教わりながら作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会やクリスマス会にご家族様を招待し一緒に楽しんでいただいている。入居者様の要望でご家族様に連絡し、思いを伝えている。ご家族様と温泉に出掛けたり、お盆やお正月に外泊される方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子・娘・嫁・孫・ひ孫・姪・甥・いとこ等のご家族様や近所の方が面会に来てくださった時ゆくり過ごしていただけるように関わっている。また、外出や外泊の希望がある時は施設での様子を伝え、薬や着替えなどの必要な物を準備している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの認知症状の違いや性格などからその日、その時の入居者様の関わり合いをみて、対応している。強い言葉・態度の入居者様に気を使っている入居者様に対して話を聴き、声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の入居者様やご家族様の不安を聞いて相談に乗り、お見舞いに行っている。特養に入所された時は、当施設での様子を伝え、面会にも行っている。退去後亡くなられた方のご家族様が「長い間お世話になりました。ありがとうございます。」と亡くなったこと教えて下さり、お礼の言葉をくださった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	手足が冷たく体に汗をかく方は、背中や腹部などにタオルを当て汚れたら取り替えて、毎日足浴をしている。ご家族様に電話をしたい方や買い物をしたい方にも対応している。孫様の結婚式に出席したいが自信がないと話していた方には、全職員で励ましの言葉をかけ出席された。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様より生活歴や馴染みの暮らし方などを入居前にも聞いているが、入居後も聞き取りケアに活かすようにしている。これまでのサービス利用の経過等も介護支援専門員より聞いて、全職員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に一日の様子を記録し、入居者様それぞれの過ごし方、心身の状態、できること、できないことなど職員間で共有している。その時々の入居者様の様子を見て、作業やレクリエーションなどの声掛けをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様より介護計画について要望や意見を伺い、医師からの指示も仰いでいる。カンファレンス時に介護計画や新たな課題について検討し意見やアイデアを出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の様子や介護計画に沿ったケアの実践、気づきを記録し、読むことで職員間で共有している。何時、どのような時に、どんな声掛けをすればいいのか記録を共有することで分かることがある。気づきやアイデアを書くノートを作り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で歌と踊りのボランティア活動をしている「美唄会」が来訪して下さった。また、地域の小学校より学習発表会の予行に招待され鑑賞に出掛けた。入居者様のご家族様がボランティアで行って下さっている「おはなしコンサート」に地域の小学校の1・2年生を招待して、一緒に楽しむ予定を立てている。買いたい物がある時は、一緒にスーパーや本屋に買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様が希望している病院を継続してかかりつけ医院にし、事業所の強力医院をかかりつけ医院にしている方もいる。医師や薬剤師に入居者様の心身の状態を報告して適切な医療を受けられるようにしている。毎年、内科健診・歯科検診(希望者)を行いアドバイスをいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の心身の状態を観察し、気づいたことは看護師に報告している。看護師はバイタル測定や様子観察して、職員に入居者様の状態や対応の仕方を説明し共有できるようにして、必要時は受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、医療機関に事業所の情報を伝えている。お見舞いに行った際に入居者様の状態を医師や看護師に伺い、退院の時期や状態を想定して退院後の支援に繋げていけるように、関係づくりに努めている。入院した時はかかりつけ医に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの外部研修に参加して、他職員にも報告して共有している。入居時や体調に変化がある時に、入居者様やご家族様に意向を伺っている。重度化した際はご家族様と相談し、かかりつけ医の意見を聞いて、事業所でできる事を説明し、入居者様にとってどうしたらより良いケアができるのかを話し合い、方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の社内研修を行い、「緊急時対応マニュアル」という書籍を準備し、全職員がいつでも見ることができる場所に置いて活用している。救命救急の講習を3年ごとに受講し、他職員に報告し、実践力を身に付け、落ち着いて行動できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、1回は消防署からの指導を受けている。火災だけでなく地震想定での訓練もしている。停電に備えて発電機を備えている。地域の消防団も避難訓練に参加して下さり、避難時の連携訓練を行った。緊急時のファイルを作りいつでも確認ができるようにしている。代表が「防災士」に認定されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強い言葉や態度をする入居者様の思いも汲み取り、される側の感情を聴き溜め込まないように対応している。分からなくても不安なく生活が送れるように、その都度説明している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物はメニューを作り選んでもらっている。誕生日には好きな物、食べたい物を聞いて準備している。カラオケが得意な入居者様には、皆さんの前で歌う機会を作っている。パジャマに着替えなかった入居者様に働きかけ、自分でパジャマに着替えるようになった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「手のリハビリになる」ともやしの根取りをしてくださり、「頭のリハビリに・・・」と計算問題を自分から行っている。昼寝をしなくてもいい日には起きて過ごしている。体調不良を訴える方には、バイタルを測り大丈夫であることを伝え、時々様子を観察して良くなったら離床の声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入浴前に着たい服を選んでいただき、外出時には着替えをしている。起床時や昼寝後など整髪の声掛けをしている。定期的に来訪してくださる床屋でやる方、希望時に近所の床屋に行つてやる方がいる。髪染の希望がある方には職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使って料理をして季節を感じていただいている。会話の中で食べたい物を聞いて、できるだけ提供するようにしている。野菜の下ごしらえや盛り付け・お茶いれ・下膳・食器拭きなどできる事を手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯がない方にはお粥・刻みで提供している。糖尿病の方にはご飯の量や糖分量を控えて提供している。心不全の方には水分摂取量が医師の指示通りになるように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、磨き残しのある方にはブラッシングの介助している。また、側で磨いていない所を声掛けして、自分でやっていただいている。舌が汚れやすい方には舌のブラッシングを介助している。毎年、希望者に歯科健診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを利用している方の排泄の間隔を把握し、汚れる前にトイレに行き排泄できるようにしている。頻尿になることがある方には、気持ちを他に向けられるように関わり、筋力が低下しているが杖歩行している方は継続してトイレに行けるように、足の筋力が落ちないように運動などの支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を使用している。便秘しやすい方は起床時に冷水を飲んでいただいたり、オリゴ糖を飲み物にいれたり、腹部マッサージをしている。体操や散歩などを毎日の日課として行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴支援はほぼ毎日、主に午前中に行っている。受診の前日や希望時に入れるようにしている。入浴時は会話を楽しみ、身体の状態を確認して処方されている軟膏を塗っている。足が冷たいため、毎日足浴の支援をしている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には使い慣れた寝具など、自宅で使っていた物を持って来ていただいている。季節や入居者様に合わせて掛物を調整している。冬は湯たんぽや電気毛布などを使用して暖かくして休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての社内研修を行っている。薬の準備をする時は2人で確認しながら行い、服用前にもう一度確認してから渡し、服用したことを確認している。状態の変化により薬が変更になった時は全職員に申し送りし、医師や薬剤師より副作用や用法の説明を受けて、状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の公民館まつりにフェルトで野菜を作り出品し、御殿まりを趣味で作っていた方に一緒に教えていただきながら作成している。農作業をやってきた方からは畑の作業を教えていただいている。入居当初はぬり絵をやらなかった方が、ぬり絵をした時に独特のタッチで塗り、皆から上手だと褒められると自分からやりたいと行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ラベンダー園、公民館まつり、小学校の学習発表会、紅葉狩りなどに観賞に出掛けている。食べたい物を伺い外食に出掛けている。毎月ご家族様と温泉に外出されている方、お盆や正月に外泊される方もいる。また、孫様の結婚式に出席するため外泊された方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭管理はしていませんが、お金を手元に持っていることで安心される入居者様もいる。欲しい物がある時に一緒に買い物に出かけて、自分で支払われている。欲しい物を職員に頼んで、後で支払う時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	息子様より電話がきて話している方、息子様に電話したいとかけている方、孫様よりハガキが届いた方がいる。娘様より手紙が毎月届く方がいて、足の筋力が低下して自由に歩行できないのでファイルを作り、枕元に置いていつでも見ることができるようにし、返事を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして、消毒・消臭を行い、温度・湿度・空調管理に気をつけている。日差しが強い時はカーテンを引き、季節の花を飾り、季節ごとに貼り絵などを作成して貼り替えている。行事の写真やホームだよりを展示していつでも見られるようにしている。ユニットがつながっていて、ソファを多く置きどこでも座り休めるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	気の合った入居者様が一緒にソファに座りおしゃべりしたり、一人で休んでいたたりしている。好きな時に居室に戻りテレビを観たり、ラジオを聞いたり、衣類の整理をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた物を持って来ていただき、馴染みのある場所になっている。ラジオやテレビを居室に置いて好きな時に観たり聞いたりしている。面会時にご家族様と一緒に撮った写真や行事の写真、ぬり絵などの作品を貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりに掴まり、安全に安心して歩行できるようにしている。シルバーカーや車椅子を使用している方が通りやすいように通り道には物を置かないように注意している。居室には入居者様の同意を得て表札をつけていて、確認してから入る方もいる。トイレが分かるように表示している。タンスの引き出しに了解を得て、入れているものの名前を明記して自分で片づけられるようにしている。		